
俺が転生したのはチートな一方通行！？

名前をクレ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺が転生したのはチートな一方通行！？

【Nコード】

N9685X

【作者名】

名前をクレ

【あらすじ】

俺は神様といういかげんな人のせいで死んだらしい。

そしてお詫びとして一方通行として、とある魔術の禁書目録の世界の高校一年生ってことで転生した。

だが、普通の一方通行さんでは無いらしい。神様がくれた能力とい

うやらで俺はこの世界で楽しめそうだぜw

ははは、最っ高だねえええ!!!!!!!!!!!!!!

じゃあ、行くとすつか…。

こんな小説ですが評価をつけてくれる方々、レビューをくれる方々
ありがとうございます。

転生（前書き）

読者の皆様、何かノリで書いた奴なので、心を無にして読んでください。

ちなみに

高校生の作品です（笑）

文章力が無かったらごめんなさいね〜

転生

視界は真っ黒、一寸先も見えない。

ここは何処だろ

とても頭が痛い

今、俺は何故かさっきまでの事を思い出せない。
何故かは俺だってわからないさ、誰かわかるなら教えて欲しいぐらいだ。

それよりここは何処だろうか？

自分に何があったのだろうか？

という疑問であたまの八割以上は、埋まっていた。

目の前は、真っ黒でなにも見えないので、手を延ばして辺りを探索しようとして、歩き回っていると手の先に壁の様な感触が当たった。

「おやおや、ここに人がくるとは誰の手違いかのう」

突然の事に俺は、尻餅を着いた

「お、お前は誰だ!!」

自分は問いかけるなにも見えない暗闇に
そして、直ぐに暗闇の中から返事が聞こえる

「お前とは失礼じゃのう 神崎孝之助君」

自分は、なにも見えない暗闇に目を見開いた。
何でおれを知ってるのかと

俺は普通の高校生

拉致られる素質も、悪い事に手を出した覚えもない。

ましては、ブログさえもしてない、

俺の名前を初対面の奴が何処かで仕入れてくるのも完全にあり得ないことだ。

しかし今、聴こえた声の主は俺を知っているようだった。

「何故、名前を知ってるのかと思っているんじゃろ?」

全てを見透かしているぞと言ってるような声で問いかけられる。
俺は再度、驚いた。

こいつは何者だと

心底から恐怖した。

そこで、暗闇の中から足音が聞こえてきた。

音を聞いてみると、どンドンこちらへ近づいているようだった。

俺は、金縛りにあったように動けずに、ただ音がする方をジッと見つめていた、

「ほっほっほ、まあそう怯えるでない。ワシは、ゾクでいう神様というものじゃ。しかし神様と言っても、人間たちが信仰してる神ではない。私は創造神であり、天罰神であり、人格神でもある」

あ、そうですか。今ならそう言い返せたらう。

しかし、この時自分は、はっきり言ってこの時は全く話が耳に入らなかつただろう。

足音ともに聞こえる声に、ただ震えていたのだから

そして、

ゆっくりと

姿が見えてきた

「おっほん、名を名乗ろう。現第一統括神、リハヘルじゃ。ゼウスはちなみに私の一番弟子じゃよ。」

「そうですねか……、あのそれより。ここは何処ですか？」

頭の八割以上閉めている疑問から聞いてみた

どうせ自己紹介は必要ないだろうと思ったからでもある

「私たちの住む世界じゃよ。」

「、おれは何であなたが住む世界にいるんですか？」

俺はここにいる理由を聞いた

「部下の手違いで、お主は食事中に 急にイラク戦争の本拠地に強制移動させられ、銃殺させられた。」

「なぜ、イラク戦争の本拠地」

話が進むにつれて、この目の前にいる人の威厳がどんどんなくなっているような気がした

「で、手違いで来たんですね、戻れますよね??」
とりあえず最優先事項であることを伺ってみた

すると、この目の前にいる人は、

「すまない、無理じゃ（笑）」

生まれて初めて湧いた殺意だった。

「そうですねか

あの、

責任とれよ、この野郎」

俺は、とりあえず腕まくりをして近づこうとする

「まあまあ、待ちなさい、落ち着きなさい。元に戻る以外の大半の

願いなら叶えてやるぞ。」

話を変えやがった…まあ、いい

願いか？願い
…

正直いって、自分は前の世界に満足してなかった。だからそれも
いいかもしれない

願い

おれの願いは

「面白い世界に転生させて。」

「いいじゃろつ、おぬしと名前が似ている者が以前いった世界に送るつ。」

まあ、俺と同じ境遇の奴がいたとは
いってみよう。俺の第二の人生だ！

「で、転生先なんじゃが。ワシのサービスで一方通行でどうじゃ？」

何で俺たちの世界のアニメ知ってるんだよ

俺の考えを読み取ったのか

「この世界でもそちらの世界のアニメというやらは人気じゃよ」

すげえ なアニメ

アニメは世界を超えるってか

「とりあえず一方通行で頼む。」

「わかった、すこしワシが能力をやるから楽しみにしてるがいいぞ」

能力？なにそれ？

質問しようとしたところ

「ほれ、行ってこい」

神様は暗闇の中に戻って行き、

俺は

ぼっかりと足元に空いた穴に

落ちたあ
あああ
あああ
あああ
あああ
あああ
!!!

転生（後書き）

読んでくれてありがとうございます。

誤字脱字等ありましたらお知らせください。

学園都市 part 1 (前書き)

建学祭という文化祭のせいで体が動けない作者です。今回の投稿はあまり力が入っていませんが読んでいただければ幸いです。感謝します。

では、

俺が転生したのはチートな一方通行
を

お楽しみください

学園都市 part 1

いてえ……………。

あたりは薄暗く、周りには電灯以外に特に目立った物も無い

あと落下中に重力のベクトルをいじってなければ今頃、明日のニュースに学園都市最強が落下死したと卑猥なニュースが流れていただろう。それより、あのジジイ（神様）め…。

しばらく神様の愚痴を一人で言ったあと、俺は落ちてる際に乱れた一方通行の紫外線を受け付けられないせいで真っ白になった髪の毛を整え、Tシャツをピンと引っ張った後に行動を開始した。

「ちょっと寒いな、ベクトルで寒さとか反射出来るかあ？…」

と言って、実際にやって見た。

体の周りに反射の中に更に薄い空気の膜を貼る…

さっきよりは暖かいか、成功といってもいいだろう。

「まあまあ、さっきよりはちょうどいいな…」

空気の膜を貼ったあと、のんびり歩くことにした、（正確には場所がよくわからないので探索ともいう）

そして探索中でコンビニをすぎた頃、俺はある重要なことに気づい

た。

金って…どうするんだろ…

そりゃ転生先がアクセラレータならお金は学園都市最強だしあるはずだ。たしか奨学金がもらえたんだっけwレベル5はたしか高いって原作で…

とりあえず、探索ついでに銀行を探してみよう。

俺は銀行探しの旅を始めた

ここからの探索は、本当に困難ばかりだった。

一件目、市役所つばいところに行くと、急に店員が自分の顔を見ると直ぐにシャッターを閉める。

二件目、銀行を見つけたが能力者のチンピラ（風使い）に急に喧嘩を売られて、あいての攻撃を反射した際相手もろとも消し飛んだためたどりつかず…

三件目、銀行を見つけ掛け寄ろうとした時に横から出て来た御坂に出くわす。運動量のベクトルを変え、一瞬で逃げる。

あぶねえ、シスターズのあれで絡まれたら原作通り動かせるか自信ないからな…変に手を出すのもよくないと思ったからでの逃走である

まあ、ご覧の通り

まともに銀行が見つからねえ…

結局、その後しばらく銀行を探して居たが見つからず、完全に夜になり悲劇的な初日を迎えた俺は、そのまますぐ近くにあった人気が無い公園のベンチに横になり、空腹になりつつ睡眠に入った。

ベンチで寝たせいか

嫌な夢を見たけどなww

まあ、その夢見たから金がだせたんだけれどもね。

目の前に居るのは、何処かでみたジジイ

「久しぶりじゃな…孝之助くん」

「ジジイ…何のようだ…」

俺はジジイを睨みながら、尋ねた

殴りてえ

俺の考えを察したのかジジイは言う。

「まあまあ、そう熱くなるでない。お主が自分の能力に気づいてないから教えに来たのじゃ。」

能力？そういえば落ちる前にそんなこといつてたな。

「ふーん、で能力言えよ。」

今思えばあの時なんで怯えてたのか笑ってしまう。まあ、あんなこと始めてだったし驚くのは無理もないよな。

この思考を断絶するように目の前の神様は口を開いた

「創造じゃよ、創造。」

創造！？作ることか！？簡単に言えば。

「あと、生物以外なら何でも作れるぞ。例えばお金でもじゃ、そしてお前の思った通りの現象が起こる。」

お金って

まさかお前見てたのかよ…

ていうか、まさかあんなに銀行が見つけるのに苦労したのって神様が弄ったからじゃないよな

「わしじゃよ」

殺意が湧いたのは言うまでもない、このジジイがイタヅラしていた

らしい

おいで（笑）殺してあげる

無意識に拳を握って笑顔で話を振った。

夢だから能力は使えないのを俺は悔やみつつ、シジイにゆっくりと近づこうとすると

「まあまあ、朝になったらお金でも作ればいい、ではまたのう。いいたいことはそれだけじゃ、たのしめ少年」

身の危険を感じた神様ことジジイは俺に一言いい終わると、直ぐに話を切り上げた。

殴る前に、やつは逃げた……………神様の姿が消え、俺の意識も無くなり、宙に浮いた様な感じになった。

またあつたら殴ってやる

さて、明日はどう行こうか……………。

それより、上条さんに会いたいな…

今日は

のんびりなチー通行さんでした

学園都市 part1（後書き）

何か要望があつたら受け付けます。

登場させたいキャラクターや、今後の展開でもかまいません。

誤字脱字等、ありましたら教えてください、では失礼します。

あと、レビューいただけるととても嬉しいです。

評価とかも付けてくれると一段やる気ができます。

これからもおねがいします

学園都市 part2 (前書き)

授業中に考えた内容ですw

ちよつとつまんなくなつてつかも知れませんがこれからが面白くなつて行くところなので、お願いします!!

では

俺が転生したのはチートな一方通行!?

をぶじぞw

目覚めたのは眩しい光が瞼に写ったからだ。

突然目の前に電撃が走ったのである。もちろん反射で無効にされたがやはり寝起きでまだ意識がはつきりしてない俺はいきなりの事に寝ていたベンチから飛び上がった

「何だ、何だ？何ですか！？」

ちよつとだけ呂律が回ってないところもあった

そんな事を気にするより俺はすぐに電撃が飛んで来たを見た

そこにはどこかで見た頭にゴーグルをつける少女が居た。

「何だと言われましたも、御坂は検体番号10011号と多少の怒りを込めて言います。」

そう、目の前に居た少女は御坂妹だったのだ。

御坂妹って事は分かるが何故怒ってるのかは知らない俺。

「御坂妹か、なんで怒ってるんだ？」

しらばくれるなという目付きで御坂妹は

「あなたは私を御坂妹と言いましたねいつもなら暴言だったあなたですが……まあそこは置いといて、御坂はあなたが昨日の遠距離実験に来て居なかったので御坂はずっと探していたのだと御坂は苦勞を思い返しつつ言います。」

ようは、俺が本当は実験をやるはずが転生（憑依とも言うかも…）
したせいで、そんな事を微塵とも覚えてなかったんだな

とりあえず今の俺は実験を続ける気はないし、彼女らを殺すなんて
シンデモデキナイデス。

一応、ここにくるまえに御坂妹のフィギュア持ってたぞw 2つほど
話が変わったな、元に戻そう

俺はここは正直に言おうと思った

「俺さ、もう実験やんねえわ…」

聞いた途端、何故かgoogleの紐が切れた。縁起悪……………

「御坂は…御坂は…どうすればいいんですかと御坂ネットワークに
議論を持ちかけます。」

御坂は、落ちたgoogleを取らずに驚愕な顔のままではばらく動か
なくなつた。

ここが公園でよかった…街中で電気なんて放出されたら溜まったも
んじゃないぞ……………

俺は内心、御坂妹にびびっていたのはここだけの秘密だ。

そして、御坂妹が表情を元に戻し俺に顔をむけた

「御坂ネットワークにより、一方通行のLevel 6 実験を打ち切りにします。組織もしばらくしたら影も実態もない組織になることでしょうと御坂は、貴方に親切丁寧に言います。」

「それより……何故、実験を中止にしたのですかと御坂は訪ねます。」

と俺が座っているベンチに頭を近づいてくる御坂妹。

まあ、聞いてくるのは当たり前だろう。

「それはだな…あの、その、殺すのはもうしたくないと思った、それだけだ。」

ていうか組織も納得早くないか!?

アクセラレータだし俺がやらないうて言えば対抗する手段は無いし、辞めざる負えないのか?

やるうと思えば、ここを滅ぼせるからな(笑)

ていうか、目の前の少女さんは

信じてないぞという顔で睨んでいる。

「何が望みですか？」と御坂は睨みを切らして訪ねます。ジッ……

汗が身体中から吹き出してただらうか、この時のアクセラレータは誰が見ても弱そうだった―

御坂は睨みを効かせてずっと睨んでくるので話を変えようと作戦を俺は打ち出した。

「あのさ、それより違うところで話さない！？寒いじゃん、ここはしばらく考えるそぶりをみせ

「今は冬ですので、それもそうですねと御坂は相槌を打ちます。」
睨むのをやめ御坂は身を起こした。

助かったあ……

冬……！？冬だとおおお？

原作は夏休みじゃないのか！？

「あ、そうだ今日は何日だ！？」

「クリスマススイブですと貴方の生活感覚に落胆します。」

クリスマススイブだとお、てことは高校一年生の冬にいるのか俺は!!
原作通り、夏にこればよかった…。てかアクセラレータ戦がもうな
くなってるしw
どうするか……………

「早くしろと御坂は悴んだ指を温めながら言います。」

公園の入り口付近に先に歩いて行く御坂。寒いのかそんなに…

「今行くから…っ」と

俺たちは公園を出た。

しばらくたって場所は歩道橋

御坂は相変わらず寒がっていたか何度だ外は

上にちょうどよくバルーン（飛行船みたいなやつ）が通ったので温度を見ると

早朝 6時 2度

現在は3度です。

寒！！！！！

俺は隣に歩いている御坂妹に直ぐに俺と同じ薄い空気膜の反射を貼った。

「……、寒くなくなったのですと、御坂は御坂の身体中を触ります。」

パタパタと身体中をぐるぐる触っている御坂は可愛かったw

「ああ、寒そうだったから反射を貼ったよ。」

すると御坂は

「異常に優しいです、本当にあなたは一方通行ですか!？」

俺はそれをしかとした、てか

睨みながらの質問はやめろってwww

そう茶番が終え歩道橋をおり終わると

某人気ファーストフード、マクリナルドあるジャマイカ。

「お、あそこにしようぜ俺が奢るから来いって!！」

「何か変です……………と御坂は地団駄を踏みます……」

この時に夢でみた能力を使ったのは秘密。

そう、俺の

ポケットには、大量の札束があった

学園都市 part3 (前書き)

アクセス回数が更新してないのにこんなに多いことに作者は学校の
昼休みで驚きのあまりに噴出したフアントの悔いもないです!!

書き出してそんなにたつてないのにこんなにみてもらえるなんて
読者に感謝感謝です!!!

学園都市 part 3

時刻は朝の10時だ

俺は目の前にあるヤシの実サイダーを飲んでいる。御坂妹は猛犬微笑だ。

俺たちが注文したのは、普通のハンバーガーを4つ（俺の）とチーズバーガー2つ（もちろん御坂妹）とポテトL共有だ。

そして俺は質問攻めにあっている…

そのせいで食事が全く進んでいない…

「あなたは本物のアクセラレーターかと私はDNA検査を推奨します。」

もちろん俺は

「本物だって、信じてくれよw」

といくら言ってみても

「あなたの話の99%は嘘だと御坂は肯定します」

俺がなんとか説得しようと言葉を発しようとした時

御坂は、当然いつもの口調より声下がった声で言った

「あなたは俺がつよくなるためには、誰を何人だつて殺すといいましたから…」

後半から声が余計小さくなり全く聞き取れなかった

そのようなことより俺は原作の一期のアクセラレーターの惨さに改めて彼女には優しくしてあげようと心に誓った…

「御坂妹……本当にすまない、でも今の俺は前の俺とは全く違う。だから信じてほしい。いや信じてくれ……俺は何があったってこれからお前の味方だ……!!」

「……………」

御坂妹、そこから何も言わなくなった…

ここは店の中、多少大きな声を出したがまわりの目を気にするなんて今は全く関係ない……!!

悲しそうにしてる彼女を、いままでは彼女達を傷付けてばかりだったろう…

でも、今は俺が守る。

俺が助けようと思った。

「御坂妹！、俺の目を見てくれ！！。俺を信じてくれ！すこしでも信じてほしい！」

しばらくして御坂妹は

「わかりましたと御坂は貴方にいいます」

この時、御坂ネットワークは2分の原因不明のサーバダウンがあったのは彼女らしかわからない

御坂妹はそう俺に告げた後、手元にあるチーズバーガーをもくもくと食べ始めたので俺もやっと久しぶりの食事をはじめた

久しぶりといっても一昨日だしなw

そして俺らが食べ終わり、店から出る際

やっとまわりに結構人がいたこととみんなこちらを見ていたことに気づいたのだった

店の前に出た俺は、出る前にトイレに向かった御坂妹が来るのを待った

side out
- - - - -
I S A K A S I S T E R side
- - - - -
Next
M

彼女は実際トイレに用は無かった。用は別にあった

「あの人はあんな大勢の人がいるのになぜあんなことをいったのかと御坂は鏡に映る自分に言います」

あのとき、御坂妹もなんやら恥ずかしかったらしい…

ちなみに一方通行は出るときに気づいたので大して気にしていない

「御坂ネットワークもサーバダウンしてしまい、私は混乱しました

と御坂10124号に愚痴を言います」

御坂たちは何故か100体先も作ってあるらしいw
それは御坂たちしかわからないことだろう

「御坂は一方通行の異常なまでの変化に驚愕を隠せませんと御坂ネ
ツトワーク全体に言います」

彼に…何があったんでしょ…まるで別人のようです
でも私は彼を信じてみようと思います…と内心でつぶやきます

「では、彼が待ってるかもしれないので御坂は気合を入れなおしト
イレを出ます！」
先ほどとは違いテンションも高く勢いよくトイレを飛び出した御坂
妹だった。

s i d e o u t
E L E R A T O R s i d e N e x t A C C

「お、来た来た」

御坂妹の姿が自動ドアのガラス越しに見える

「待っててくれたんですね…と御坂は確認を聞きます」

「もちろんだよ」

俺は率直に話した。

「とりあえず飯も食ったし、この後も暇ならどっかさ遊びに行こうよ!」

この言葉を聞いた瞬間に御坂妹の脳内の99%はあることを考えていた

遊び=デート??????

何気に御坂妹もデートという言葉を知っているようだ
もちろん一方通行はデートのつもりで誘ったわけではない

「どうした?行くか!」

我に返った御坂妹は決断した。

「行きましょっ」

そして

彼らは二人揃ってあるきだした。

学園都市 part3 (後書き)

作者「御坂妹が遊びに行く＝デートとかwww何勘違いしてるんだしww」

御坂妹「何か言いましたか??と御坂は何います」

作者「いや、なんでもないよ。楽しんできなw」

御坂妹「もちろん行くには楽しんでできますと御坂はそんな当たり前のことを聞くなと怒り気味に言います」

作者「いつてらあ」

御坂「観覧している読者方、本当にありがとうございますと御坂は付け加えます」

評価つけてくれる方や感想をくれる方、本当にありがとうございます

す！！高校生で文才もないこの自分に「泣」

本当にありがとうございます！

評価がつけられるたびに作者のやる気も上がります！！><

是非とも評価ボタンをポチッとお願いします

感想もえたら必ず返信しますよ

これからもお願いします

日間ランキング33位らしいです！

いつか10位内入ってやる！！

学園都市 part 4 (前書き)

書く時間があまりない

でも待つてる人がいる…

がんばらなきゃな……

明日ぐらいに小説編集で直すところ全て直します、

感想くるだけでも作者は、喜びます。

これからもお願いします!!

では、俺が転生したのはチートな一方通行!?

を

どうぞ!!

学園都市 part 4

俺たちが遊びに来た場所は、御坂美琴がレールガンの弾（というのか？）であるコインが扱われるゲームセンターである。てかコインを持ち出してる御坂美琴って窃盗罪じゃないのか！？
まあ、そこは突っ込んだら負けだろう。それより実際にこのゲームセンターに来れるなんて死んでも思わなかったな…

と考えている思考を遮断するように横から両手に大量にぬいぐるみを抱えた御坂妹が現れた。

UFOキャッチャーでたくさん取ったんだろうか

「何をしていますか？と御坂は貴方を引つ張り出します…」

ちなみに読者の皆様は気にしないでだろうが俺はシューティングゲームをしていた。この野郎あと少しでハイスコアだったのに！！！！

女子と遊ぶのって大変なんだな…

「御坂…次は何を一緒にやればいいんだあ！？」

御坂は完全に自分の世界に入っているので、俺の声はもちろんながら耳に入ってるわけが無い。

結局引つ張られるように連れていかれた場所は……………

プリクラですとおお!?

「これですと御坂は貴方を連れ込みます。」

御坂は楽しそうな声で言った後、俺の腕を引っ張り中に連れ込んだ。

「プリクラか……… どんだけ久しぶりなんだろう………」

久しぶりではない、俺は取ったことはない

「プリクラですが、以前やりたかったのですが一人で取るより誰かと撮った方が楽しいらしいと御坂は御坂ネットワークから情報を収集したと貴方に報告します」

検体番号いくつかしらんが御坂の中で女性雑誌か誰かとプリクラを撮ったやつでもいたのかw

「そうか…とりあえず撮るか!！」

「はいと御坂はウキウキしながら喜びます」

御坂は軽く踵を浮かして俺に言ってるところがとても可愛らしく見えたのは俺の心に残る写真として一生取っておこう…

俺は今日始めてプリクラを取るようになった。

「いつらしゃいませ、レッドスターへようこそ」

レッドスター………プリクラの名前ね

とりあえずお金を入金して、次の作業に移った。
もちろん出すのは俺だぞ！！女の子にお金を出させるなんてできる
わけないだろう！！
常識だ常識。

「背景を選んでね！！……………」

画面の左下にカウントダウンが始まり、御坂は（以後御坂と言わせ
てください）背景を選んでるようだ。

御坂は、画面に顔を近づけて真剣に背景を選んでいる

しばらくしたあと、御坂は後ろを見る

お…背景えらんだようだな！

どれどれ…後ろにおりてくる背景を見ると、

……………ハート?????一色

御坂が選んだ背景（壁紙）はピンクのハートがたくさん浮かんでい
るのを選んだようだ。

女子の思考はやっぱりわからないな…………

「背景を選択したね！！写真を撮るよ！！！！」

さて次は写真か……

「もう少し寄ってね!」

………寄るの………?? 恥ずかしい

なんて言ってる場合じゃないぞ、くつつくのか!?

俺は御坂の方を見る

「ポーツ………」

彼女も乙女だな………うんうん

でもここは男である俺からやるか

「御坂!! もうちょっとこっち来いよ………」

俺が御坂と呼んだ瞬間、御坂の身体はビクンとしていた

それよりも俺も恥ずかしい……

早くとりおわりたい………

御坂はゆっくりとそばに寄り、完全に肩と肩がくつついた

「そのまま動かないでね………5………4………3………2………

………1」

カシャ

写真を取り終えると、俺たちは内心ホッとしたらろうっ…あんなにくっついてたら心臓持たないぞw

あと、最後の一秒長すぎなかったか……

「っ、次は、取った写真にペンで書くらしいです……と御坂は言います……」

御坂がキョドっていたの見えるとはレアだな……

御坂の顔から血が引いたかのようにペンでデコレーションしていくとともに顔色は戻っていた

俺はのんびりと御坂の顔を見ていると

「私はデコレーションが終わったと貴方に報告します」

デコレーションが終わった写真を見ると検体番号が大きく書かれていた。

軽く俺の顔についてるしwww

さて俺も書くか……

ペンを渡された俺は、顔の近くに一方通行と書いた。

「御坂は貴方のセンスを疑います……」

うるせええ、この野郎……

学園都市 part 4 (後書き)

ちよつと今回は時間が無くて感情を表現できてません……

大会で疲れてるんですね……

ちなみに結果は市内2位です

後に編集します!!何か不適切や文などありましたら連絡をください。

評価つけてもらえるとうれしいです。

やる気も沸き立ちます。

そして

陸上部もがんばりまーす!!

読んでくれている貴方に私は心から感謝申し上げます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9685x/>

俺が転生したのはチートな一方通行！？

2011年11月5日03時26分発行